

## アライグマ専用捕獲器の開発

### 1 はじめに

特定外来生物に指定されたアライグマは全国的に増加傾向で、捕獲が増加のスピードに追いついていない状況となっています。原因のひとつは、ネコ・タヌキなどが誤って捕獲されてしまう錯誤捕獲です。そこで、アライグマと錯誤捕獲される動物の行動特性の違いを明らかにし、アライグマだけに作動する「筒式トリガー」を開発しました。また、「筒式トリガー」を使用することで、アライグマを二足起立させることができるので、捕獲器の奥行を短くすることが可能になります。この技術を使い、問題となっている錯誤捕獲の解消とコンパクト化を実現した捕獲器を、(有)栄工業（新潟県）と共同開発しましたので紹介します。

### 2 研究内容

アライグマは前肢を手のように使い、狭い隙間などの奥の方にあるエサを取ることができます。この行動は、アライグマが持つ特徴的な行動です。今回開発した専用の「筒式トリガー」は、その特異な行動を利用したもので、アライグマだけが作動させることができます。実験では、錯誤捕獲が発生しない筒内部のトリガーの位置を測定しました（図1）。実験の結果、開口部から17cmの深さにトリガーをセットすることで、ネコ・タヌキなどの錯誤捕獲を解消できることが明らかになりました。



図1 前肢到達位置の測定

また、「筒式トリガー」の位置を高くし後肢で立ち上がらせることで、捕獲器の奥行を短くでき、捕獲器のサイズを幅31cm、高さ47cm、奥行45cmのコンパクトな形状にすることができました。

そして、野生個体による捕獲実験を実施し、効果の検証を行いました（図2）。その結果、錯誤捕獲は発生せず、アライグマだけが捕獲できています（表1）。



図2 捕獲実験の様子（捕獲器に入るアライグマ）

表1 各試験区の対象獣種と捕獲頭数

試験区		アライグマ	ネコ	タヌキ	ハクビシン	アナグマ	テン	イタチ	カラス
① 罠設置数:2 稼働日数:102日	訪問回数	19	57	45	2	0	0	1	12
	罠内侵入	12	6	24	0	0	0	0	1
	捕獲頭数	3	0	0	0	0	0	0	0
② 罠設置数:2 稼働日数:55日	訪問回数	18	42	7	0	2	0	5	31
	罠内侵入	13	21	0	0	2	0	1	12
	捕獲頭数	5	0	0	0	0	0	0	0
③ 罠設置数:1 稼働日数:65日	訪問回数	23	226	0	0	0	0	3	12
	罠内侵入	4	28	0	0	0	0	0	1
	捕獲頭数	1	0	0	0	0	0	0	0
④ 罠設置数:2 稼働日数:58日	訪問回数	13	11	37	0	0	0	0	0
	罠内侵入	5	5	1	0	0	0	0	0
	捕獲頭数	1	0	0	0	0	0	0	0

### 3 今後に向けて

開発した専用捕獲器は、(有)栄工業と共同特許・共同意匠登録出願中であり、平成 30 年4月より販売を開始しています。錯誤捕獲を問題としている市町村を対象に、捕獲器の導入を推進するとともに、農作物や生活環境被害および生態系に係る被害の軽減と、拡大防止に役立てたいと考えています。

#### 【問い合わせ先】

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315（代表）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/araiguma-hokakuki.html>